

## 平成 25 年度本会員活動方針

厚生労働省 里見隆治

平成 25 年度本会員の代表幹事を務めさせていただきます。副代表の座間さん（花王）、川波さん（防衛省）と協力して、総計 31 名の幹事団で本会員活動を盛り上げて参りますので、宜しくお願ひ申し上げます。

### 1 はじめに（略）

### 2 本会員活動に当たって

昨年度活動方針にある「守るもの。変えるもの」について私なりに考えた実践論としての最大のポイントは「不作為」の克服だ。漫然と所与の責務を遂行するだけでは、責任を全うしたことにならない。そうならないために、どうすべきか。

#### 東日本大震災から 2 年半を経過して

前回、研究会員幹事として活動した平成 22 年度は東日本大震災発生の年。編集に当たった「浩志第 48 号」において特別企画「東日本大震災を乗り越えて」を組み、震災を受けて、この日本社会で、また海外から日本を見て、何を考え、どう行動したかを綴った。

その際に焦点を当てた、大災害を乗り越えることのできる日本人の絆、逞しさ、誇りとともに、大自然への謙虚さ、科学技術との格闘——今、2 年半以上経過して、その速度について様々な捉え方があるが復興の進行に加え、経済情勢の改善、東京五輪開催決定といった正の側面だけで全体像を見失うことなく、尚も未来志向で議論を深めていきたい。

#### 「六中観」～基本方針<コフシカイ・ホ！>

先の「六中観」にヒントを得て、25 年度本会員活動の基本方針を思索した。一部、本義と離れ、順不同とし、私見を交えている点、ご容赦願う。

コ「壺中・天有り」：多彩な人物・活動の中で日常の仕事では得られない世界を獲得

フ「腹中・書有り」：活動を通し研鑽を重ね、行動のための生きた哲学を得る

シ「死中・活有り」：会員の必死の現場経験を共有、活用する場に

カ「苦中・楽有り」：敢えて難しい活動に挑戦し活性化を楽しむ

イ「意中・人有り」：活動を通し尊敬できる人物のネットワーク拡大

ホ「忙中・閑有り」：活動に積極的に「参加」

ここで「死中、苦中、忙中」と言っでは一見息苦しい印象を与えかねないが、各々の活動に際しては「楽しく、活発に、心に余裕をもって」関係者で十分協議しながら進めたい。

なお、最後の「参加」について、会員の皆様のご多忙は十分承知の上で敢えてグループ毎の参加率には拘り、総会で称えていくという点は継続する。

### 3 具体的な活動内容

#### グループ活動

活動の基本であるグループ活動については、平成 20 年度（一部 19 年度）以降 2 年間同一グループを基本としている。24 年度は全体を大きく再編したため、25 年度は、幹事の一部入れ替えや研究会員からの転入等を除き、昨年度のグループを継続する。

月例会について、企画しやすいテーマ・視察は 24 年度で一巡したかもしれないが、25 年度は、1 年目の蓄積を活かし、特に新規開拓には知恵を絞り、研鑽を深める機会としていきたい。また、時期をみて複数グループによる共同開催も検討する。

#### グループ活動以外

全体としては、総会（11 月 14 日）、合同月例会（24 年度は 5 月）、夏季全体研修会（26 年 8 月 23 日）を盛大に開催する。

また、サロン、トップ懇談会、親子対談などでは、通常お目にかかれない方との交流を期待している。特に、親子対談は、OB 会員との世代を超えた刺激の場になればと回数の増加を検討している。

本会員幹事は、これら各グループ・各行事を担当するが、他に本会員活動の基盤を官房的組織として支える「企画・総務」担当も重要である。本年度はトップ懇談会も担当した上で、会員の名簿整理など地道な活動もあるが、会員の皆様の協力を得て、その基盤整備に当たっていただく。

以上